

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071600912		
法人名	学校法人 久留米ゼミナール		
事業所名	グループホーム 御井つつじ苑		
所在地	福岡県久留米市御井町 20011番地 (電話) 0942-45-0967		
自己評価作成日	平成 24 年 4 月 30 日	評価結果確定日	平成 24 年 7 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

- * 自治会への加入で地域の回覧板につつじ苑の便りを回して頂いた事で少しずつ認識して頂く様になり、不要になった洋服やタオル等を持って来て頂く関係ができた。
- * 送迎担当者を配置しかかりつけ医の受診等は苑で行なっている。
- * 起床の時間は無理に起こさず、利用者に合わせて自由に行なっている。
- * 全介助が多いフロアには職員を増員して利用者に満足して頂く支援ができるよう勤務体制を工夫している。
- * 家族に写真入りの苑便りや利用者の様子を知らせる手紙を毎月送り家族と情報の共有をしている。
- * 外出の機会を増やし、住み慣れた場所へのドライブを支援している
- * 上司を交えた全体会議が月に1回開催され、その場で職員からの要望等の発言できる機会がある。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 24 年 5 月 18 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

文教地区の閑静な住宅街に位置し、近郊の風景を見渡せる丘陵地に建つ3階建て3ユニットの事業所である。苑内はゆとりある広さが確保され明るい環境にある。自治会への加入で「生き生き便り地域版」を回覧、不用品になった洋服やタオル・花の苗・野菜等の差し入れ、また、避難訓練には地域住民の参加もあり、地域との相互関係ができています。運営推進会議にも幅広い参加者があり、地域高齢者の現況等意見交流がありサービスに活かしている。2階に広いウッドデッキが設置されており、デッキから観る土手いっぱいの花々は職員のアイデアで居心地の良い場所になっている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域への参加を含んだ理念になっている。「地域とのふれあいを深めその人らしい生き方」毎朝、朝礼で唱和している。	地域密着型視点での、事業所独自の理念があり、「地域とのふれあいを深めその人らしい生き方」と、理念の実践に向けて、ミーティングや会議などでも意識的に取り組んでいる。管理者・職員は毎朝礼時唱和し、理念を具体化していく事を意識して、利用者に関わっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているが日常的な交流はまだ少ない。地域の清掃や缶当番に利用者と一緒に参加している。利用者と地元の方との会話もでき、近所の付き合いが実感できている。	自治会に加入し、「生き生き便り地域版」を閲覧している。地域での清掃活動・敬老会に参加、餅つき大会での餅を近所に配る、また不用品や花の苗・野菜等のおすそ分けがある等、地域住民との相互関係がつけられている。夏祭り子供神輿では、途中休憩時、事業所駐車場でお茶してもらっている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議に民生委員をはじめ地域の代表者を交え、情報交換をし、地域高齢者の状況報告し、皆で意見を出し合い、安心して暮らせるよう、事業所としてもアドバイスしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を重ねる中で地域のかたの高齢者に対する熱心な思いが伝わり出来る限り皆様の意見を取り入れサービスの向上につなげている。	2ヶ月に1回定期的に運営推進会議を開催している。事業所から利用者やサービスの実際・今後の活動計画を報告し、委員から意見・要望・質問等をもらっている。町会・民生委員から地域高齢者の現状報告等、そこでの情報交換でサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告書提出は市役所担当者を訪問して現在の問題等を相談し、家族への対応の仕方、ポイント等を指導していただき改善にむけて取り組んでいる	日頃から行政窓口で、運営に対する報告や問題が出れば相談し、ポイント等指導してもらい情報を共有しながら、協力関係を築き連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての施設内、施設外研修に参加し理解に努めている。日常支援の中で気になる行為があれば、職員同士注意し正しく理解する様取り組んでいる。玄関の施錠に関しては立地条件が悪く危険が伴うためそのことを御家族にも理解を得ている。	身体拘束に関するマニュアル・テキスト・パンフレットを持ち、外部、内部研修に参加し、記録を残している。職員は身体拘束によるリスクや、利用者の人間性を傷つけ不利益をもたらす事を理解し、言葉による抑制がなかったか等も含めて、職員同士声かけ身守り強化に努めている。	立地上の問題で施錠している件は、対応の方法やハード面の工夫、検討が継続して行われるよう配慮して欲しい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に関しての施設内研修に参加し、理解に努めている。日常支援の中で気になる行為があれば、小さいうちに職員同士注意し、防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も日常生活自立支援事業の利用者がいる。事業担当者と連携を図り、必要な方に利用できるようにしている。施設内勉強会を開き、成年後見制度や日常生活自立支援事業の学習を行った。	制度に関して利用者・家族等に、契約時にパンフレットを渡し説明している。また、「生き生き便り」に掲載して情報提供している。全職員が制度について内部・外部研修で学ぶ機会を持ち、それらを活用できるよう支援している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時にはその時以前より詳しく説明したり、不安や疑問点などないか尋ね、納得してもらってから契約や解除をしている。途中、改定等の際も書面にて全家族に理解、同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が日頃の会話の中で意見を引き出すことを中心に市より来て頂いている介護相談員に利用者からの要望などを聞いてもらうようにしている。また意見箱を1階に設置し、活用している。毎月、家族へ手紙を出し、1ヶ月間の利用者の状況を伝えている。	本人の願いや希望は日常会話の中から拾い上げ、可能なものは実現へ向けて取り組んでいる。家族には運営推進会議時や、家族面会時の声掛けに努めている。また毎月の担当職員からの手紙送付等を通じて意見や思いの表出に努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を毎月フロア長会議やカンファレンス会議で聞くようにしている。内容も検討し出来る限り反映させている。意見箱を1階に設置し、活用している。	管理者は、月1回のフロア長会議やミーティングで、職員の意見やアイデアを聴く機会を設けている。ウッドデッキから眺める土手の花植え（芝桜・マリンゴールド）を提案、屋外で使うテント・テーブルを買ってほしい（お好み焼きを焼く）等実現、運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績が、給与にも反映するよう努めている。就労時間にも配慮した資格手当等も随時見直し、よりよい職場環境になるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては人間性を重視している為、性別や年齢で排除しないようにしている。従事する職員に関しても本人の要望等を出来るだけ尊重し、いきいきと勤務できるように配慮している。	職員採用には、本人の意欲、介護への熱意、人間性を重視している。教育・定年・退職等においても、安心して働ける職場環境にある。有休等の勤務調整を行い資格取得に協力している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	回覧にて全員に周知するようにしているが現在は行なわれていない。	管理者・全職員は、人権教育に関する外部・内部研修に参加し、全員で人権に関する意識を共有している。 「個人別研修記録計画、及び実施記録」を作成、平等に受講できるよう取り組んでいる。	回覧や伝達研修を実施し、全職員に周知して、人権教育・啓発活動に取り組んで欲しい。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	系列の施設全体での勉強会を行なっている。また各施設での小研修も行なっている。経験また力量に応じ研修を受講してもらい、また外部研修は希望をつのり参加を促している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会の副事務局を受け持っている。地域密着型サービスの生活圏域事業所交流会への参加、同業者との意見交換等を参考にサービスの質を向上させる取り組みをしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた時点より本人の思いを受け止めるために自宅や入院先の病院へ訪問をしたり、可能であれば本人にも施設を見ていただき、支援の内容も十分に説明している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より何度も家族と連携を取り情報交換の場を重ね不安に思っていることや、疑問点等を聞き、受け止め、信頼関係を築いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、担当ケアマネジャー、ソーシャルワーカーやその他の関係機関などと話し、必要としている支援を見極めるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全介助の利用者が多く、またターミナルの利用者もいるなかで、買い物や生花展示会などへ外出したりなど利用者本位の暮らしをどう実現していくのか、職員同士で話し合っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度の手紙で御本人の様子を知らせ、イベントの際は招待している。 面会時等で家族と共に考える時間をもち、利用者を支えている。運営推進会議にも参加し、意見を述べて頂いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望を大事にし、生まれ育った地域や以前働いていた場所、生花教室など外出支援を行っている。また、家族への理解も頂き、満足される支援ができる様努めている。	本人が馴染みにしていた理髪店、納骨堂、筑後川、文化センター等の要望には、積極的に外出の支援をしている。また家族の同意で、自宅で過ごしてもらう帰宅支援や、利用者が大切にしている人や場所等のこれまでの関係を継続できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考慮し、席の配置を決めている。また、利用者同士で大きなトラブルになる前に、職員が声をかけ、関係を修復している。そのことで、利用者同士の声かけや気遣いが生まれている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、家族に状況を聞いたり、病院へ面会に行き、相談や支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの生活を見つめ、利用者の希望や意向の把握に努めている。またその希望にも利用者主体のサービスを心がけている。	利用者一人ひとりに目を向け、信頼関係を構築し、言語と非言語的コミュニケーションを用いて、利用者から出ている信号を察知して、対応に努めている。また、情報収集に関しては家族からのアセスメント以外で聞けなかった事も教えてもらい、個別的な関わりを持つようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に伺い、記録として残してる。又、日頃の会話から得た情報も記録の保存に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人でバイタルチェックの回数を決めている。行動を共にする事により状況の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、関係者等の意見を聞き利用者一人ひとりにあった介護計画を作成している。	フロア毎の職員が中心になり、家族や主治医と連携、情報を共有し利用者の意向を組み、個別ケアに寄り添う計画書を作成している。見直しは3カ月に1回をペースに行い、家族に報告、変化がある際は内容を検討、作成し直している。面会時や郵送で、家族から介護計画を了承した署名・押印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録、観察を元に月1度のカンファレンス会議で個人個人について検討している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望等に出来る限り対応できるように柔軟な支援を行なっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前より利用していた理美容室、病院、銀行等を把握し、希望される利用者は職員同行で引き続き支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を優先している。受診の際には日頃の状態を報告し連携を図りながら支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医（通院・往診）への受診を支援している。かかりつけ医との連携を密にし、情報を共有している。また、家族等と受診時の通院介助の方法や伝達の方法についても話し合っており合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の記録に加えて、異常時には連絡をとり、指示をもらって適切な対応が受けられるように支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者の混乱が少ないように医療機関に情報提供をすると共に家族の代弁者として希望を伝える。また、定期的に面会し医師や看護師との情報交換や相談をし、早期退院に向けて努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、利用者1名がターミナル医療を受けている。ターミナル宣告を受ける前から家族に日々の状態を説明し、また、どこまで対応が可能かも説明を行っている。体調に変化が生じた場合には、即医師の往診を受け、家族に連絡をとっている。	重度化・終末期ケア対応指針書があり、利用者の状態が変化した時、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。本人や家族の意向を踏まえ、医師と連携を図り利用者や家族が安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習や緊急時の対応の研修を受けている。職員の連絡網を作り夜間にも対応できるようにしている。また、施設の合同研修において、事業所の看護師より応急手当の指導を受けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の両方を想定した定期的に年2回の火災訓練を行なっている。地域住民参加の避難訓練、消火訓練を行ない、事業所の実情を知ってもらっている。	年2回消防署の協力を得て、昼・夜を想定、5月、10月に実施している。地域住民の参加を得て、避難訓練・消火訓練を行い、事業所の実情も知ってもらっている。（3階まである）非常用備品・食料・飲料水（人数×3日分）確保し、職員全員で周知徹底を図っている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り時や職員同士、日常の利用者との会話の中で、利用者の気持ちが傷つかないように気をつけている。方言での会話の中にも常に利用者への尊厳を忘れずに和気藹々とした会話になっている。	日常支援の中で、言葉遣い等気になる行為があれば、職員同士互いに注意し合える関係作りができています。利用者によっては馴染みある方言も使いつつ、常に尊厳を忘れない様心がけている。利用者の思いを共有し、フローア職員同士で支援方法を検討し合っている。記録もありのまま残している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望が言いやすい環境をつくり、衣類等選ぶ時は、本人の希望を受け止め支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側を優先しがちであるため、仕事という観念を外して家族の一員として接していきたい。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在は本人や家族の希望で職員がカットしている。行きつけの美容室を希望される場合は、職員同行で支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の後片付けは一緒にしているが、準備は出来ていない。誕生日には本人希望に沿ったメニューにしている。食事全介助の利用者3名には何を食べているか職員がメニューを伝え、一口一口味わってもらう支援をしている。	食事作りは調理師が専門で作っている。利用者はその調理準備と片づけに加わり、おやつは全員で手作りしている。職員も一緒に食べている。嗜好調査を定期的に行い、料理に組み込んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録を行っており、記録を確認した上で、高カロリーのゼリー飲料を提供したりなど、利用者の状況に応じて工夫をしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ケアに努めている。利用者の能力に応じて、道具だけ準備したり、全介助したりしている。希望があれば定期的に口腔ケアを専門医に診てもらっている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシート等を利用し、排泄のリズムを考慮して、利用者からのサインを見逃さないようにしてトイレ誘導を行なっている。	利用者一人ひとりのサインを見逃さない様見守りし、排泄チェック表の確認や、定期の声掛けを行い支援している。失禁した際は慌てずさり気なく対応し、浴室に行き清潔にする。出来る限りおむつに頼らない様本人の便意・尿意を促す努力をしている。便秘の人には、かかりつけ医と連携し、内服治療を促している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本的に飲食物で予防し、適度な運動を取り入れている。それでも困難な方は、医師に相談している。最近、施設で塩麴を作り、調味料として使用し、便秘の改善に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	できる限り利用者の希望を尊重し、体調を考慮した上で、会話を楽しみながら、個々に応じた入浴を支援している。	大まかな入浴時間はあるが、希望があれば臨機応変に対応している。入浴には馴染みのタオルや本人好みのシャンプー等準備して抵抗がないようにしている。窓から外の景色が眺められ圧迫感がない。入浴拒否の場合は、人や時間をおき、会話を楽しみながら入浴支援をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実行している。入眠前の習慣を尊重している。その日の体調や状態をみて柔軟に対応し、また、重度要介護者の日中の過ごし方は、時々ベッドに休息してもらうなどメリハリの工夫をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬については、医師からの指示内容を連絡帳やケース記録に記帳して、職員全員で確認をしている。服薬時は側で見守り、飲み込みまで確認したり、嚥下が悪い利用者には、オブラートゼリーを使用して全介助に行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出が好きな利用者、生け花を趣味にしている利用者、職員の手伝いを積極的される利用者、計算ドリルや塗り絵が得意な利用者など、一人ひとりの能力に合わせて支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のその日の症状や職員の配置の状況を考えながら車で外出したり、介護度の高い利用者には外気浴など行なっている。外出先では写真を撮って、その写真をフロアに貼り、外出に行った事を話題にして、本人や家族とコミュニケーションを図っている。	天候や体調にもよるが、事業所内に閉じこもらない様程良い外出機会を作り、利用者の思い出作りをしている。ドライブは主に市内で外食、買い物、季節に応じたの花見、祭りへの参加を行う。孫の披露宴出席の意向もあり、職員の付き添いで喜ばれている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に了解を得、事務所で管理している。買い物を楽しむを味わっていただく為、行事として計画する事もあり、要望に応じて支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて対応、支援している。年賀状、暑中見舞いに利用者一言書いていただき家族へ送付している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁に季節を味わってもらえるものを飾り、その飾りつけは利用者と職員が協力して作り上げている。また、利用者が外出した時や行事を行った時の写真を掲示している。	リビングには、季節に応じたテーマで利用者と職員の協働作成展示物があり、共用空間は狭すぎず、離れ過ぎずとなっており、独りきりにならないよう、声が届く距離になっている。掃除も行き届き清潔に、トイレ・浴室・居室が解るように名前を大きく貼りだし混乱しないよう配慮している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の隅にソファを置いてちょっと腰を下ろし、落ち着けるスペースを作り工夫している。また、利用者同士で作業を行う場合には、椅子を一つのテーブルに集めて、利用者同士が声かけしながら作業できるような工夫もしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好きな物を中心に飾ってある。自宅からなじみの物を持ってこられているものはそのまま使用していただいている。家族からの手紙、写真を飾られたり、静かな時間を過ごせるようにしている。	居室内は一人ひとりの希望で、ベッドや布団になっており、写真や思い出の品々を持ち込み、タンス・テーブル・テレビ等、夫々本人が解り、使いやすいように工夫している。窓から光も射し、朝日を感じる居室である。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個室の入口やトイレ、洗面所に表示し、少しでも混乱されず、スムーズに自立した生活が送れるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域への参加を含んだ理念になっている。 「地域とのふれあいを深めその人らしい生き方を」毎朝、朝礼で唱和し、地域における苑の存在意義を意識する。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はまだ少ないが、イベントの時は声をかけて、出席していただいている。避難訓練の時に参加していただいている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議に民生委員をはじめ地域の代表者を交え、情報交換をし、地域高齢者の状況報告し、皆で意見を出し合い、安心して暮らせるよう、事業所としてもアドバイスしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を重ねる中で地域のかたの高齢者に対する熱心な思いが伝わり出来る限り皆様の意見を取り入れサービスの向上につなげている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告書提出は市役所担当者を訪問して現在の問題等を相談し、家族への対応の仕方、ポイント等を指導していただき改善にむけて取り組んでいる		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての苑内、苑外研修に参加し理解に努めている。日常支援の中で気になる行為があれば、職員同士注意し正しく理解する様取り組んでいる。玄関の施錠に関しては立地条件が悪く危険が伴うためそのことを御家族にも理解を得ている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に関しての苑内研修に参加し、理解に努めている。見逃しがちな放置とかが起きないように、チェックや、職員同士の声かけをしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も日常生活自立支援事業の利用者がいる。、事業担当者と連携を図り、必要な方に利用できるようにしている。苑内勉強会を開き、成年後見制度や日常生活自立支援事業の学習を行った。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時にはその以前より詳しく説明したり、不安や疑問点などないか尋ね、納得してもらってから契約や解除をしている。途中、改定等の際も書面にて全家族に理解、同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誕生日の食事のメニューを希望に沿える物にしている。日常の会話の中からとか、家族の面会時に要望をうかがったりして、利用者の欲する生活を見出そうとしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア長会議やカンファレンスで、職員の声を拾うようにしている。日常的にも意見を聞いている。意見箱を設置し、幅広く意見を集めようとしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績が、給与にも反映するよう努めている。就労時間にも配慮した資格手当等も随時見直し、よりよい職場環境になるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては人間性を重視している為、性別や年齢で排除しないようにしている。従事する職員に関しても本人の要望等を出来るだけ尊重し、いきいきと勤務できるように配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	回覧にて全員が周知するようにしているが現在は行なわれていない。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	つつじ苑の全体での勉強会を行なっている。また各苑での小研修も行なっている。経験また力量に応じ研修を受講してもらい、また外部研修は希望をつのり参加を促している。外部研修の記録をファイルし、職員が学びやすい環境づくりに努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会の副事務局をうけもっている。地域密着型サービスの生活圏域事業所交流会への参加、同業者との意見交換等を参考にしてサービスの質を向上させる取り組みをしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	接触の時間を多く持ち新しい環境で心細くならない様声かけしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心して利用者を苑に託して下さるよう、苑での生活を説明し疑問や不安にも対応している。家族の希望を出来る限り取り入れ、本人の生活が以前と全くかけ離れたものとならないようにしようとお話を伺っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、担当ケアマネジャー、ソーシャルワーカーやその他の関係機関などと話し、必要としている支援を見極めるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	片付けを一緒にしたり、その人の能力に応じて生活を共にしている。又、一人きりにならないように他の利用者との話しを調整し、疎外感を感じないように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会の際、その人の生活歴に触れ、利用者への理解を深められるよう、協力を得ている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身内の方への手紙を書くように勧めている。外部の人から電話がかかった時は、その人との思い出などを聞かせてもらっている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	思うように体が動かない人の洗濯物を他の人がたたんだり、食後のトレイを自分の物以外も片付けたりする雰囲気は自然にできていく。利用者の特性を考慮し、日常生活が円滑にいくように、座席を決めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、家族に状況を聞いたり、病院へ面会に行き、相談や支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話や家族の話を基に、本人の好きな物、安心できる環境づくりに努めている。また、カンファレンス等でも、利用者が楽しく生活するにはの視点を持ち、話し合うようにしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	されげなく、昔話を聞き出している。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当を決め、細かい観察ができるように努めている。1日の出来事は日誌につけ申し送りをしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の介護計画のチェック、3ヶ月ごとのモニタリング、アセスメント、本人、関係者の意見をまとめ、計画をたてている。病状の変化、事故の発生によっても、介護計画は変更される。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を記入し、日々スタッフの意見を取り入れ改善に努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の急変時には、平時とは違う連絡網を使用し、至近距離の職員が駆けつけるシステムにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前より利用していた理美容室、病院、銀行等を把握し、希望される利用者は職員同行で引き続き支援している。地域のイベントにも参加している。ボランティアの演奏等も利用させてもらっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の定期往診で意見交換をし、それに加え異状があれば電話でそのつど指示を受けたり、往診を依頼している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の記録に加えて、異常時には連絡をとり、指示をもらって適切な対応が受けられるように支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者の混乱が少ないように医療機関に情報提供をすると共に家族の代弁者として希望を伝える。また、定期的に面会し医師や看護師との情報交換や相談をし、早期退院に向けて努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについてもふれている。病状の悪化が考えられる場合は家族、医師、職員で話し合いを持ち、対策を考える。その上で、終末期の介護についての十分な説明を行ない、家族の同意を得られたら意向確認書を作成して頂いている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習や緊急時の対応の研修を受けている。職員の連絡網を作り夜間にも対応できるようにしている。また、苑の合同研修において、事業所の看護師より応急手当の指導を受けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行なっている。近所の方々も参加され、消防署員の話が聴かれる。運営推進会議の時に議題に出し話し合っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り時や職員同士、日常の利用者との会話の中で、特定の利用者と分からないように、利用者の気持ちが傷つかないように気をつけている。言葉遣いには細心の注意を払うようにしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	イベント等への出欠も必ず意見を聞き、出来る限り本人の気持ち優先で生活している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すべて本人の思いのままに生活できている訳ではないが、何事も強制はしていない。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室を希望される場合は職員同行で支援している。本人の希望するシャンプーや化粧品を購入している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	みんなで野菜の皮むきをして、下準備をされる。進んで後片付けをされている。誕生日には本人希望に沿ったメニューにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に記録を取り、飲まれる物を好みに合わせて提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中に食べ物が残らない様、注意している。食後に口腔ケアをしている。専門医の検診を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシート等を利用し排泄のリズムを把握している。利用者からのサインを見逃さないようにしてトイレ誘導を行なっている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、腹筋を使う運動をしている。水分が不足しないように声かけをしている。適宜薬も服用してもらっている。最近、苑で塩麴を作り、調味料として使用し、便秘の改善に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	日の強制はしていないが入浴時間は全く自由ではない		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の判断、または体調に合わせて、自由にしてもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの薬の資料をファイルしている。毎月の定期往診の際に効能等相談をしている。配薬の時、日付、名前を声に出し、本人確認をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を持つ人には、材料を集めたり、洋裁の型紙を用意し、生地を職員同行で買い物の支援をしている。歌の好きな人には歌集を作り、歌う時間をもうけている。また、農作業経験がある利用者に教えてもらいながら、小さな田んぼを作り、田植えをし収穫の喜びを得ている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のその日の症状や職員の配置の状況を考えながら車で外出したり、介護度の高い利用者には外気浴など行なっている。外出先では写真を撮って、その写真をフロアに貼り、外出に行った事を話題にして、本人や家族とコミュニケーションを図っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に了解を得、事務所で管理している。買い物を楽しみを味わっていただく為、行事として計画する事もあり、要望に応じて支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時に電話がかけられるようになっている。年賀状、暑中見舞いに利用者一言書いていただき家族へ送付している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁に季節を味わってもらえるものを飾り、その飾りつけは利用者と職員が協力して作り上げている。また、利用者が外出した時や行事を行った時の写真を掲示している。トイレ、洗面所、浴室の表示がしてある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつも集っている場所とは別に、テーブルとソファを置き、利用者が好きな時に利用できるよう工夫している。また、外気浴を兼ね、ウッドデッキでお茶をしたり食事を楽しんでいる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに思い出の品や、家族が揃えた物がおいてある。毎月本人が作ったカレンダーもはってある。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差にはスロープが設置してあり、誰でもが危なげなく移動可能にしてある。個室の入り口やトイレ、洗面所に表示し、少しでも混乱されず、スムーズに自立した生活が送れるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域への参加を含んだ理念になっている。「地域とのふれあいを深めその人らしい生き方を」毎朝、朝礼で唱和している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているが日常的な交流はまだ少ない。地域の清掃や缶当番に利用者と一緒に参加している。利用者と地元の方との会話もでき、近所付き合いは実感できている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回開催している運営推進会議に民生委員をはじめ地域の代表者を交え、情報交換をし、地域高齢者の状況報告し、皆で意見を出し合い、安心して暮らせるよう、事業所としてもアドバイスしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議を重ねる中で地域の方の高齢者に対する熱心な思いが伝わり出来る限り皆様の意見を取り入れサービスの向上につなげている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告書提出は市役所担当者を訪問して現在の問題等を相談し、家族への対応の仕方、ポイント等を指導していただき改善に向けて取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての苑内、苑外研修に参加し理解に努めている。日常支援の中で気になる行為があれば、職員同士で注意し正しく理解する様取り組んでいる。玄関の施錠に関しては立地条件が悪く危険が伴うためそのことをご家族にも理解を得ている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に関しての苑内研修に参加し、理解に努めている。日常生活の中で気になる行為があれば、小さいうちに職員同士注意し、防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も日常生活自立支援事業の利用者がいる。事業担当者と連携を図り、必要な方に利用出来る様にしている。苑内勉強会を開き、成年後見制度や日常生活自立支援事業の学習を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には詳しく説明したり、不安や疑問点などないか尋ねて、納得してもらってから契約や解除をしている。途中、改定等の際も書面にて全家族に理解、同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が日頃の会話の中で意見を引き出すことを中心に市より来て頂いている介護相談員に利用者からの要望などを聞いてもらうようにしている。また意見箱を1階に設置し、活用している。毎月、家族へ手紙を出し、1ヶ月間の利用者の状況を伝えている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を毎月フロア長会議やカンファレンス会議で聞くようにしている。内容も検討し出来る限り反映させている。また意見箱を1階に設置し、活用している。職員の個人面接をし、意見を更に反映させたい。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績が、給与にも反映するよう努めている。就労時間にも配慮し、また資格手当等も随時見直し、よりよい職場環境になる様努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては人間性を重視している為、性別や年齢で排除しないようにしている。従事する職員に関しても本人の要望等を出来るだけ尊重し、いきいきと勤務出来る様に配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者の人権にかかわらず、人権等の問題についてその歴史的背景や人権にかかわる話を主体に定期的に資料を配布し、理解を深めていくようにしていたが現在は行えていない。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	つつじ苑の全体での勉強会を2か月に1回行い、各苑での小研修も行っている。経験または力量に応じ研修を受講してもらい、また外部研修は回覧で希望者をつのり参加を促している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会の副事務局と受け持っている。地域密着型サービスの生活圏域事業所交流会への参加、同業者との意見交換等を参考にサービスサービスの質を向上させる取り組みをしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた時点より本人の思いを受け止めるために自宅や入院先の病院へ訪問をしたり、可能であれば本人にも施設を見ていただき、支援の内容も十分に説明している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より何度も家族と連携をとり情報交換の場を重ね不安に思っていることや、疑問点等を聞き、受け止め、信頼関係を築いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人・家族等の事情や要望を基に何が必要かを見極め、必要に応じて他のサービスの利用調整を行うなど、出来ることは速やかに実行している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を一方的な立場に置かず、利用者から色々な事を教えて貰いながら生活している。昔ながらの家庭料理や掃除のやり方、缶当番や花壇の草取りも定期的に利用者中心に無理のないように行なっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が「支援している、されている」という一方的な縦の関係ではなく、家族の苦しみ、喜びを受け止め、本人の生活を共に支援していける関係を築いている。親子の関係がうまく行っていないと感じれば間に立ち話をしたりしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望を大事にし、家族への理解も頂き、満足される支援が出来るよう努めている。行きつけの床屋に散髪に行く事でお互いの近況報告をされたりする。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を考慮し、席の配置を決めている。また、利用者同士で大きなトラブルになる前に、職員が声をかけ関係を修復している。そのことで、利用者同士の声かけや気遣いが生まれている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、家族に状況を聞いたり、病院へ面会に行き、相談や支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの生活を見つめ、利用者の希望や意向の把握に努めている。また、その希望にも利用者主体のサービスを心がけている。入所前は毎日外出されていたとの話を聞いて散歩に出たり外出に行ける様ケアプランに反映している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に伺い、記録として残している。また、日頃の会話で昔話などをしてその中から得た情報も記録の保存に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人でバイタルチェックの時間や回数を決めている。また、行動を共にする事により状況の把握に努めている。スタッフがしている行動を見てアドバイスをされたりする為利用者の方にやって頂いたりしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、関係者等の意見を聞き、その希望に向けて、利用者一人ひとりに合った介護計画を作成している。以前は計画者が一人で作成していたが、職員が皆で意見を出し合っで計画書を作成していく形態を作る様努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録や観察、職員の意見を元にアセスメントを作成し、月に一度のカンファレンス会議で個人個人について検討している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望等に出来る限り対応出来る様に柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。外出などには男性の力がある為ローテーションの変更を行ったり、24時間対応の看護師を配置したりしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前より利用していた理美容室、病院、銀行等を把握し、希望される利用者は職員同行で引き続き支援している。また、地域の子供で結成された和太鼓演奏のボランティアもきて頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を優先している。受診の際には日頃の状態を報告し連携を図りながら支援している。気になる症状があれば家族に相談し的確に対応している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の記録に加えて、異常時には主治医に連絡を取り、指示をもらって適切な対応が受けられるように支援している。また日頃から看護師の指導を受け、より良い健康管理や医療支援に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には利用者の混乱が少ないように医療機関に情報提供をすると共に家族の代弁者として希望を伝える。また、定期的に面会し医師や看護師との情報交換や相談をし、早期退院に向けて努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師を含めた話し合いの場を持ち、ターミナルのやり方を説明し、家族の希望も十分取り入れるようにしている。家族と同じ気持ちを持ち本人や家族に納得して頂ける行き届いた看取りを常に目指している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習や緊急時の対応の研修を受けている。職員の連絡網を作り夜間にも対応できるようにしている。また、苑の合同研修において、事業所の看護師より応急手当の指導を受けている。そのことで緊急時の実践につながっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の両方を想定した火災訓練を消防署の職員に来て頂き、年2回定期的に行っている。運営推進会議で呼びかけ地域住民の参加の避難訓練も行っている。マニュアルも避難訓練に合わせて確認を行うよう声掛けを行なっている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送り時や職員同士、日常の利用者との会話の中で、利用者の気持ちに立ち傷つかない様に職員同士で声を掛け合いながら気をつけている。方言での会話の中にも常に利用者に対する尊厳を忘れないよう心がけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望が言いやすい環境を作り、希望があれば可能な限り対応している。また、意思疎通の困難な方に対してはこちらからの声掛けの反応を見て利用者の立場で考える様努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先しがちである為、仕事という観念を外れて、家族の一員として接していけるよう支援していきたい。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの床屋を希望される場合は職員同行で支援している。また買い物の際には職員同行で利用者が好みの服を選べるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が行っているが、後片付けを手伝って頂いたり、誕生日には本人さんの好きな物をメニューに追加している。また外食をしたり、花見の時などはお弁当を用意し楽しんでもらっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックシートを作成し、食事摂取量や水分量が一目で分かるようにしており、なるべく目標の水分量に近づく様に努めている。また食事摂取量が少ない方や摂取できない方には栄養ドリンク・ゼリー等の栄養補助食品を活用している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	現在、9名の利用者のうち1名は毎食後、口腔ケア介助（歯槽膿漏）しているがまだ8名の方は夕食後のみ行っている。利用者の希望により週1回、4名の方が専門医の口腔ケアを受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシート等を利用し、排泄のリズムを考慮して24時間声掛けを行ないトイレ誘導をしている。夜間ふらつきがある方や歩行困難な方はオムツにするのではなくP.トイレを使用して気持ちよく排泄して頂いている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基本は飲食や適度な運動を取り予防しているが、それでも困難な方は医師に相談し下剤で調整している。また歯の状態が悪い方には副食は刻みにしている。最近、塩麴を苑で作り調味料として使用し、便秘の改善に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	利用者からの訴えがない場合は事業所が決めたローテーションに合わせてしまっているが訴えがあった場合は臨機応変に対応している。出来る限り利用者の希望を尊重し、体調を考慮したうえで会話を楽しみながら、個々に応じた入浴を支援している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠前の習慣を尊重している。その日の体調や状態をみて柔軟に対応している。夜間、睡眠が浅い人には天気の良い日には出来る限り外気浴、散歩等を行なっている。それでも眠りが浅い人には睡眠導入剤を使用している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の薬や処方については処方箋を基に連絡帳やケース記録に記入して、職員全員が確認をしている。服薬時は側で見守りし、飲み込みまで確認している。薬が苦手な方にはゼリーに混ぜて服薬して頂いている。また、誤薬を防ぐ為に服薬時に日付、名前を声に出し確認を実施している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農業をされていた方を中心に草取りや田植え、稲刈りをしたり、季節の山菜などを取りに行き調理してもらったりしている。女性の利用者の方には雑巾を縫って頂き、男性には荷物運びといった力仕事をして頂くなどして役割を持って頂いている。その事により昔を思い出され懐かしまれる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿っての外出は中々出来ないが後日、計画し出掛けている。毎月の家族への手紙で外出の協力をお願いしている。花咲く季節になれば少人数での外出をしたりしている。車椅子の方でも本人の希望があれば外出を行なっている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で少金額持参されている方もありますが、殆どが家族に了解を得て事務所で管理している。買い物の楽しみを味わって頂く為に行事として計画する事もあり、要望に応じて支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より家族や知人に電話したいと要望があった時は職員がダイヤルするなどの支援をし、ゆっくりと会話を楽しんでもらっている。手紙を書かれた時は切手を購入し投函する等の支援をしている。年賀状や暑中見舞いには利用者の方に自筆で一言書いて頂き家族へ送付している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁に季節を味わってもらえるものを利用者と一緒に作り飾っている。また誕生日には季節の花を飾ってお祝いをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の隅にソファを置いてちょっと腰を下ろし、落ち着けるスペースを作り工夫している。また、利用者同士で作業を行う場合には、椅子を一つのテーブルに集めて、利用者同士が声かけしながら作業できるような工夫もしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好きな物を中心に飾ってもらっている。自宅から馴染みの物を持ってきて頂き使用してもらっている。家族からの手紙や写真を飾ったりして過ごしてもらっている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口やトイレ、洗面所等に看板を作り、少しでも混乱せずスムーズに自立した生活が送れるように工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない